

三浦半島で記録された鳥4種

柴田敏隆*

1959年に、三浦半島では記録されたことの少ないハシボソミズナギドリ、ミヤコドリ、ミツユビカモメ、アオバトを調査する機会を得たので報告する。

ハシボソミズナギドリ Slender billed Shearwater.

Puffinus tenuirostris (TEMMINCK)

Date June 2, 1959

Locality Mabori beach, Yokosuka City

| | | |
|---------------------|--------------|-----|
| Measurements (m.m.) | Total Length | 373 |
| | Wing | 256 |
| | Culmen | 32 |
| | Tail | 89 |
| | Tarsus | 49 |

Sex ♀ ad.

1959年6月2日朝、横須賀市馬堀町、馬堀中学校前の海岸で、馬堀中学一年生、小野寺弘、大塩英夫両君が死体を拾得、計測の後、本剥製として横須賀市博物館に収蔵された。

本種は南半球で蕃殖し、5~7月頃、日本近海の大洋に渡来し、時には海湾や沿岸にも飛来する。松平氏によると、相模湾の沖合では5月中旬より6月初旬にかけて、かなり飛来する模様であるが、三浦半島では、この個体が最初の確認記録である。前日の強風によって遭難したものらしく、東京湾内の記録としても最初のものであろう。神奈川県下、相模湾内における従来の記録は次の通りである。

| | | |
|------------|-----------|----------------|
| 1919年6月 | 鎌倉沖 | 松平頼孝氏採集 |
| 1921年5月4日 | 江の島ボット下にて | 東京水産大学所蔵♀ |
| 1925年5月25日 | 茅ヶ崎沖姥島にて | 黒田長礼氏採集 1♀3♂** |
| 1925年6月 | 茅ヶ崎沖姥島にて | 松平頼孝氏採集 |

**山階鳥類研究所所蔵 No. 1655, ♂ ad., No. 1656, ♂ ad., No. 1657, ♂ ad., No. 1658, ♀ ad.,

ミツユビカモメ Pacific Kittiwake

Rissa tridactyla pollicaris RIDGWAY

Date March 28, 1959

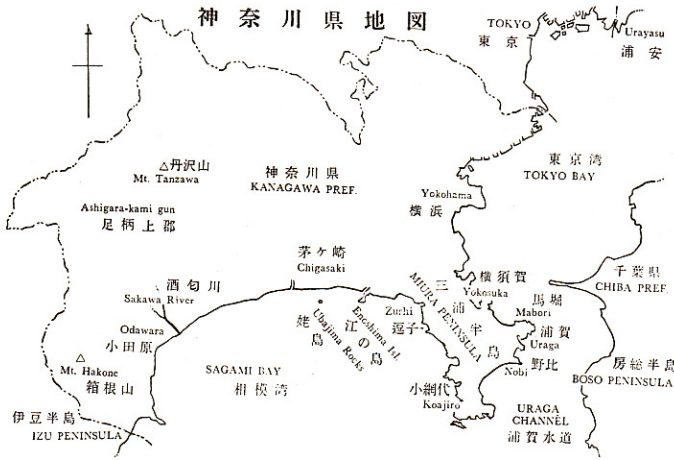
Locality Koajiro bay, koajiro, Miura City

| | | |
|----------------------|--------------|-------|
| Measurements (m. m.) | Total Length | — |
| | Wing | 308.5 |
| | Tail | 135 |
| | Tarsus | 33.5 |

no head, ad., decomposed sex unintelligible

1959年3月28日、三浦市小網代、小網代湾の奥にある水田に死体となって放棄され、既にかかなり腐敗し、頭部は欠損していた。

脊面は著しく腐敗脱毛しているが、胸、腹、上尾筒、尾羽は純白で、風切羽の黒斑の模様から見ても完全な adult であった。初列風切第6羽先端部の白色部は左右共に微小で、1mm×1.5mm程度、右側第5羽の先端にも極く微小の白色部を認めた。この初列風切第5羽先端の白色小斑は個体によって欠損するものもあり、山階鳥類研究所所蔵の9標本(何れも adult)について調べた



処、左右共完全に無いもの1、左右の何れか一方を欠くもの夫々各1ずつ認め、残り6点は、左右共に認められた。第6羽、第7羽先端の白色部は一般に極めて顕著であるが、前述したようにこの個体は、他に比べて第6羽の白色部が著しく小さかった。

本種は樺太、千島などで蕃殖し、冬季冬鳥として北海道、本州、四国に渡来する。

東京湾、相模湾内共にかなり多い模様で、松平氏によると2月頃に多

いという。神奈川県下に於ける従来の採集記録は次の通りである。

1917年2月7日 逗子沖 松平頼孝氏採集 含 ad.

1917年3月 逗子海岸 東京水産大学所蔵 ♀

又、神奈川県下に於ける Sight record としては、次のようなものがある。

1951年1月29日 小田原海岸(魚市場下) 田代道弥氏 3羽

1959年3月30日 酒匂川河口 杉崎一雄氏 幼鳥 1羽

1960年1月2日 酒匂川河口沖合 " 5羽

1960年2月3日 酒匂川河口 " 幼鳥 1羽

他に、熊谷三郎氏は1940年3月17日、1942年3月22日静岡県伊東市伊東湾内で少数の本種を認めており、田代氏は杉崎氏の観察例と併せて、3月には未だ残存するのではないかと推測されている。

ミヤコドリ Oystercatcher
Haematopus ostralegus osculans SWINHOE

Date December 19, 1953

Locality Nobi beach, Nobi, Yokosuka City.

Measurements (m.m.) Wing 255

Culmen 82

Tail 100.7

Tarsus 47.2

Sex ♀ ad.

1953年12月19日、横須賀市野比海岸にて河野台住氏が入手したもので、本剥製に仕立てられ、河野氏宅に保存されている。本種の冬羽に見られる喉の白色斑紋は全くなく、右眼下部の白色小斑は小さく7×3mm位、左眼のは欠除していた。ミヤコドリは往時は神奈川県下でもかなり多数見られたというが、近年は稀で、1953年11月、浦賀及び茅ヶ崎で各1幼鳥が獲られ、更に1955年11月には横須賀で1羽が捕獲され剥製屋に持ちこまれたことを三島冬嗣氏が報告している。1957年9月には高野伸二氏等が、千葉県浦安海岸で数回に渉って観察している。

ア オ バ ト Japanese Green Pigeon
Sphenurus sieboldii sieboldii (TEMMINCK)

Date February 10, 1954

Locality Higashi, Nobu, Yokosuka City

Measurements (m.m.) Wing 175
 Culmen 18.3
 Tail 115
 Tarsus 26.8

Sex ♀ ad.

1954年2月10日、横須賀市野比東（ひがし）の地先にあるこんもりしたカシの樹林の中にいるのを某氏が空気銃で撃ったものを、河野台住氏が剥製に仕立てて保存している。河野氏はその後（1956～1957年？冬の頃）も、野比牛込（うしごめ）にて本種を一羽目撃し、特有な鳴声も耳にしたという。本種は山地の深い森林に棲息し、本州中部以北及び本州の山地では夏鳥として渡来し、冬季はかなり遅く迄留まっている模様である。神奈川県下では箱根、丹沢の山地に棲息し、Sight record としては田代道弥、大野久良夫氏等は箱根で、平岩康熙、鈴木秀男、村上司郎氏等は丹沢で、清棲幸保氏は大磯海岸で夫々に記録している。採集記録としては山階鳥類研究所に次の3標本が所蔵されている。

| | | | |
|-----------|------------|-------------|-------|
| No. 26490 | 1884年9月8日 | 神奈川県足柄上郡矢倉沢 | ♂ ad. |
| No. 26491 | " | " | ♀ ad. |
| No. 26492 | 1884年9月28日 | " | ♀ ad. |

三浦半島では今回が初めての記録であるが、常時棲息するものとは思えない。

本稿を草するに当って、文献と標本の閲覧を許された山階鳥類研究所、河野台住氏並びに種々御教示頂いた箱根自然博物館田代道弥氏に深謝致します。

文 献

- 平 岩 康 熙 1938. 丹沢山塊、札掛の鳥、野鳥 5(2):177~179.
橋 川 次 郎 1949. 水鳥数種の標本（東京水産大学所蔵）鳥獣の生態 4:108.
熊 谷 三 郎 1948. 伊東附近の鳥類 生物 3(1):31~33.
清 棲 幸 保 1952. 日本鳥類大図鑑 II. III. 講談社:639~640; 647~676; 778~780; 809~811.
松 平 頼 孝 1915. 神奈川県下の鳥類採集 鳥 1(2):76~80.
" " 1925. 相模湾に於ける各種の水風鳥の去来及び習性に就いて 鳥 4(18):190~194.
三 島 冬 嗣 1956. 日本及び周辺の鳥類の新分布地その他 鳥 14(67):17~24.
" " 1957. ミヤコドリ of 記録 鳥獣集報 16(1):120.
大 野 久 良 夫 1958. 箱根探鳥会 野鳥会横浜支部報 17:8~9.
Orn. Soc. Jap. 1958. A hand-list of the Japanese birds 4th & Rev. Ed. :175; 185~186; 217; 225.
鈴 木 秀 男 1956. 丹沢の鳥 その1. 神奈川県林業ニュース 39:3~4.
高 野 伸 二 1958. ミヤコドリ of 記 野鳥 23(1):20~21.
田 代 道 彌 1956. 箱根の鳥類 小田原郷土文化館:9.

Résumé

Four Rare Birds from the Miura Peninsula

Toshi. SHIBATA*

(With 1 Plate and 1 Text-figure)

The writer reports four comparatively rare birds found on the Miura Peninsula.

A dead Slender-billed Shearwater, *Puffinus tenuirostris* (TEMMINCK) was found on June 2, 1959 at Mabori beach in Yokosuka. The natural habitat of the species is over the open sea, so that they are seldom sighted or collected, even dead.

A dead Pacific Kittiwake, *Rissa tridactyla pollicaris* (RIDGWAY), was found on March 28, 1959 at Koajiro Bay in Miura City. This was an adult, much decayed and without a head. The white part at the tips of the 6th Primaries was very small on both right and left wings. There are many reports of this species being sighted in Kanagawa Prefecture, but very few are collected.

An Oystercatcher, *Haematopus ostralegus osculans* (SWINHOE), was collected by Mr. Daiju Kono on Dec. 19, 1953 at Nobi beach in Yokosuka. This is the first reported from Miura Peninsula.

A Japanese Green Pigeon, *Sphenurus sieboldii sieboldii* (TEMMINCK), was collected on Feb. 10, 1954 at Higashi, Nobi, Yokosuka. Judging from reports that their habitat is confined to the forests of Hakone and Tanzawa, it is surmised that this individual was only a straggler.

*Yokosuka City Museum, Yokosuka.



Fig. 3 Oyster catcher *Haematopus ostrategus* SWINHOE
ミヤコドリ (剥製)

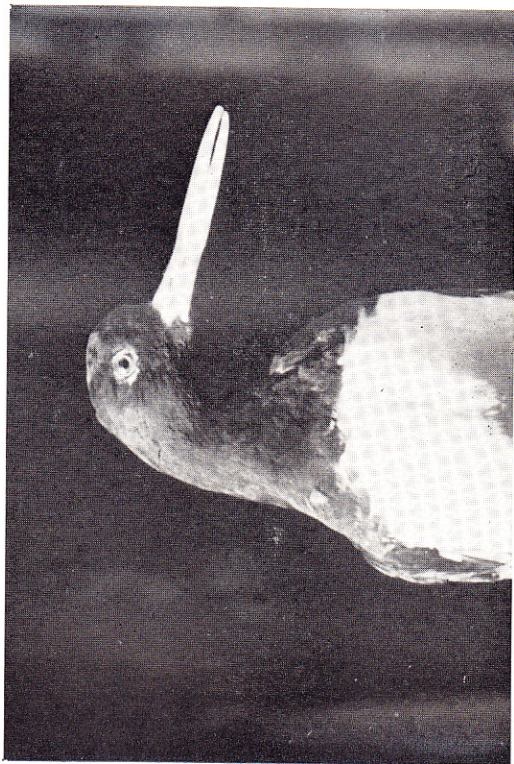


Fig. 4 Headland chest of *Haematopus ostratenus* SWINHOE
ミヤコドリの上半身部 (剥製)



Fig. 1 Slender billed Scaurwater *Puffinus tenuirostris* (TEMMINCK)
ハンボソミズナギドリ (剥製)



Fig. 2 Face of *Puffinus tenuirostris* (TEMMINCK)
ハンボソミズナギドリの頭部 (剥製)